

水への感謝の気持ち
それはこれからも
変わらない



水土里ネット大菊
総務課長
みやびのひろ
宮川一寛さん

水の大切さを基に、農業の大切さを
知ってほしいと平成15年から「田んぼ
の学校in白川中流域」を開催し、大津
町や菊陽町の子どもたちと熊本市の
子どもたちは自分たちが消費する地下
水がこの地域で生まれていることを知
りません。この地域で地下水が生まれ、
熊本市でおいしい水を飲むことができ
る…そのことを熊本市の人たちにも
知ってほしいですね。他の地域でも田
んぼの学校は行われていますが、地元
と熊本市との交流を深めている取り組
みは珍しいと思います。

江津湖における地下水の湧水量が、
昭和35年は100万トンあったのが、現
在では40万トンほどに減っています。
水は無限にあるわけではありません。
節水することも伝えながら、「水土里
ネット白川中流域」では、今後も「田ん
ぼの学校」を続けていきたいと思っ
ています。



放流を行い、子どもたちに川と水の大切さを伝えています



熊本大学や県立大学のダイビング部の皆さんの協力で放流や学習会を行います

確か昭和35年ごろまでは川の水を飲ん
でいました。それほど水がきれいだったの
です。だから、昔の白川のようにもっときれ
いな川に戻ることができるなら…と思っ
ています。大津町の用水路も、ほとんどが白
川からの水を取り入れています。川から用
水路へ流れ、そして水田から地下に浸透し
地下水となります。

川の素晴らしさを知ってほしいと思っ
ています。そのために、子どもを対象に体験
学習を行っています。うなぎや鮎、かになど
の放流や川についての学習会、水遊びなど
を行い、川のことを教えています。

白川の鮎はとても大きいと全国でも評
判なんです。それは、水がきれいなこともあ
るんでしょうね。

私たちの仕事は、一言で言うと「水の番
人」でしょうか。川がきれいじゃないと魚も
すめない。川をきれいにするには、まず上
流側からきれいにしないといけないと思っ
ます。これからも、川の実環境整備を進め
ていきたいですね。白川で釣りをを行う場
合は、白川漁協にご連絡くださいね。

白川漁業協同組合 ☎ (380) 9303



白川漁業協同組合
代表理事組合長
さかぐちひろ
坂口茂弘さん

あのころの
白川に戻りたい

次世代に伝えたい
その大切さを 田んぼの学校

大津、菊陽地域の水田は俗に「ザル田」
と呼ばれています。水田に水を張って
も1日に10センチの水が浸透していき、
正にザルのように水が地下に吸い込ま
れていきます。水田を使うことも、私た
ちの大切な水を守ることでもあるので
す。そこで、白川中流域の4土地改良区
では、子どもたちにその水の大切さを伝
えるために、「田んぼの学校」を平成15年

から行っています。熊本市や菊陽町、そ
して大津町の子どもたちにも、水、そして
農業の大切さを知ってほしいと活動し
ています。今年の6月21日、大津町で
「田んぼの学校in白川中流域」が行われ
ました。当日は、町内や熊本市の小学生
と保護者127人が参加し、田植え体験
のほか、地下水かん養機能の学習、土地
改良施設の見学を行いました。子ども
たちは、日ごろできない体験に大喜び
で、一日中会場一杯に歓声が響き渡って
いました。



地下で水を磨く
For the next

阿蘇山の噴火による火砕流が降り積
もり、熊本県の地面は完成しました。火山
灰の積み重ねによる地面の層が地下水
を作りやすくしているのです。浸透し
た水が、大津町から江津湖まで進むの
は、10年から15年かかるといわれていま
す。熊本市まで少しずつ進むことで、不
純物がほとんど取り除かれるのでおい
しい地下水になるのです。
私たちは、阿蘇から流れてきた地下水
を使用しています。阿蘇の人が水を汚
してしまつたら、私たちは水を使えなく
なつてしまいます。おいしい水が飲めるの
は、とてもありがたいことなのです。
阿蘇の人たちは、私たちのために。
私たちは、熊本市の人たちのために。

地下水都市 “くまもと”

水と地域

熊本市を中心とする地域では、飲料水のすべてを地下水でまかなっています。
約100万都市の水道資源を地下水でまかなうことができるのは、熊本県だけとされています。
水道の蛇口からは自然のフィルターでろ過されたおいしい「ミネラルウォーター」が流れてきます。
そのありがたさを理解して、水とその地域が取り組む活動を知っておく必要がありそうです。

